

往復書簡

今回は、宮下直明氏（群馬県、(有)あずま産直ネット）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡2回目です。

拝啓 高木 勇樹様

厳寒期の終わりが見え始め、野菜や花々が一気に春に向けて活動を始めた勢いを実感できる時期、気候になつて来ました。

現在の農業は高齢化による担い手の減少、新しい栽培技術の実用化、産業化への動きなど新たな局面へと向かつており、高木様の言われる総合知識集約産業とはこれからの農業に最も必要な事と私も思います。

私が重要だと考えるのが若者の定着率が高くないという事で、企業にとって人材育成は重要であり、定着率を上げる事が産業、企業の強化に繋がっていくのではないのでしょうか。私は今、生産部門に所属していますが人材育成の一つとして弊社における栽培技術のマニュアル化を試みたいと考えています。始めて間もない人でも興味を持ち、楽しさや遣り甲斐を知ってもらえるように、そして社内でも同じ情報を共有する事で一定以上の品質で作れるようにしたいと考えているからです。もちろん気候や生育状況が毎年同じことはいりませんのでそれは経験者がカバーをし、新しい人達に基礎となる技術の習得や作業の効率化、個々の意識向上などが見込めるのではないのでしょうか。ただ栽培技術があっても農地がない、農地が集約できても作つた物の販路がない、販路があっても収益増にも結びつかない、といったどこか一つが欠けても経営としては成り立っていけないのでマーケティングやマネジメント力は農業法人として必要不可欠であり、また他の分野や企業と協力し総合知識集約産業を形成していくことが重要であると考えます。

現在、農業法人の経営者は初代、創始者が多いと思われませんが、次世代である私たちが成すべきことはインフラの維持そして発展、拡大だと考えています。ここ数年で農業の六次産業化の動きが進み、作る、売るだ

けでの農業に留まらない新しい産業への発展、企業の成長が見られます。

また、支援策の一つとしてすでに行っていると思いますが、都道府県単位で農業経営講座を開き、栽培技術だけではない総合的な人材育成を会社外でも行えるようにする、市町村単位で各地域での横の結びつきを強くする為、法人や農家を対象に勉強会や懇親会の開催、野菜価格の変動でも安定した賃金が支払える雇用安定の為の助成など挙げる事ができるのではないのでしょうか。

最後に支援策とは別ですが学校給食では地産地消に取り組んでいますので、食育の一環として幼・小中学校に赴き子供たちに野菜の話をし、興味を持ってもらうのもいいのではないのでしょうか。まだまだ未熟者ですが次世代農業人として日々野菜と向き合っていきたいと思

平成二十五年三月吉日

敬具

宮下 直明(みやした なおあき)

有限会社あずま産直ネット(群馬県) 施設部長
二〇〇三年三月 関東学院大学卒業
二〇〇四年三月 日本農業実践学園専修科卒業
二〇〇四年四月 (有)あずま産直ネット入社
現在、ハウス栽培2.5haにて、トマト・ミニトマト・イチゴ・チンゲン菜等の栽培責任者(施設部長)



上段：圃場へ向かう
下段：朝礼にて一日の作業工程を従業員に説明

拝復 宮下 直明様

東京の桜は、今年は寒かったので遅いのではとの素人の予想は見事にはずれ、最速タイの早さで満開となり、季節は確実に春の到来を告げているようです。ただ満開の後は花冷えが続く、花持ちが良いのは桜のせめてもの思いやりでしょうか。

貴方が指摘されているとおり、農業の経営資源として最も大事なものは人材（最近では人財）人は財産という意味でしょうか）であり、技術です。ものづくりの基本です。この点がいまいちかり持続的に継承されていくシステムづくりは持続的農業経営体にとっての生命線と言ってよいと思います。

貴方がその点に注力しようとしているのは極めて大事なことで、ぜひ「あずま産直ネットモデル」を作り上げてください。貴方なら必ず出来ると思います。

そのことをベースに、儲かる、収益のあがる経営にしていくなれば、これも貴方が指摘されているとおりのことが実現されなければなりません。そしてまた現在農業経営法人の経営者は初代、創始者が多いとの指摘もそのとおりで、この方々は良くも悪くもカリスマ性があり、万能選手の方が多く、しつかりとした信念（経営方針）のもとで、一面頑固にがむしゃらに今の「経営」を築き上げてきた方です。

それだけに、この「経営」をどう産業として持続的なものにしていくか、次世代には大変な創意工夫、努力が求められると思います。まさに貴方が言われるとおり、インフラの維持、時代の変化に対応した発展、拡大のビジネスモデルの構築ということ

でしよう。その場合地域とのつながり、子供世代との関係づくりは大きな意味を持つと思います。

私はこれを成功に導く原動力は、貴方の感性（創造力、想像力、先見性、決断力、責任感などの総合力）つまりものさしだと思えます。感性・ものさしを豊かにするのは、万物、森羅万象に対する思いやりと優しさだというのが、私のこれまでの人生から得た実感です。

ご健勝とビジネスモデルづくりの成功をお祈りしています。

平成二十五年三月吉日

敬具

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒業後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官
二〇〇二年 農林中金総合研究所理事長
二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任
二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

